

若者の視点

尚絅大学生によるレポート22

オンラインでの議会傍聴の感想

地域の課題を深く考えるきっかけになった

現代文化学部 2年 佐藤 朋代

私が、今回の議会傍聴で最も印象に残った質問は、「新規就農者（担い手）の不足対策」です。単に大津町に国の計画を取り入れても、新規就農者の解決策にはなりません。大津町独自の補助をすることで、新規就農者の確保を考えてほしいということだった。

現在、他県では、新型コロナウイルスの影響で、外国人労働者が来られず、農業関係者が不足しているようです。今回の議題は、大津町だけでなく、日本各地の問題でもあると思います。今回、改めて、農業の後継者不足の実態を学ぶことができたと思います。

議題の回答では、5年前に比べ、耕作放棄地を7ヘクタール減らすことができたとありましたが、今は耕作放棄地を減らせても、後継者がいなければ、いずれは放棄地の増加につながってしまいます。そのためには、今後の10年間で、その土地に根付いている方法、例えば、土の性質に合わせた育て方など、農業の中の文化も継承していかなければならないのではないかと思えます。



12月11日（金）に社会学概論の授業の一環として、大津町議会をオンラインで傍聴しました。その後、受講生に議会傍聴の感想を書いてもらい、授業内で発表してもらいました。

議員が必死に取り組んでいた

現代文化学部 2年 上田 真綾

今回初めて議会を傍聴しました。印象に残ったことは、思っていた以上に、住民の生の声を反映して、町を良くしようと真剣に質問し、答えていたことです。特に、世相を反映して傍聴した質問のなかにも、コロナ関連の住民の声を訴えたものが多かったです。

そのなかでも、「コロナ禍における子ども医療費助成対象年齢引き上げ」の質問が印象に残りました。コロナ禍で、保護者の収入が減り、大人よりも病気やけがをしやすい子どもの医療費が負担になっているというのは切実な問題で、可能ならばより多くの子どもを対象にすることが必要だと思えます。また、一人親や、非課税世帯ではない人達にも、支援を広げるべきだという意見もでて、コロナ禍で収入が減った人々のことを、必死に考えてくれているのだということを知りました。

議員という仕事は、なかなか実態がイメージしにくく、あまり良いイメージを持ちにくい。私は大津町の住民ではないが、自分の住んでいる地域の市町村議員の方々に、感謝するべきだと思った。そして、これからは、自分の住んでいる地域のニュースや取り組みにも少しずつでも関心を持ちたいと思えました。



定例会総括

アンケート調査結果

委員会レポート

一般質問

高校生レポート

大学生レポート